Q&A　入門期の文字を書く指導について



教科書一年（上）10〜11ページ



教科書一年（上）95〜96ページ

Q　入門期の文字を書く指導について、教科書はどのように考えているのですか。

A　従来は、「読むこと」の教材と結び付けて、「あいうえお」「かきくけこ」と、順次書き文字を指導していただけるように配置していました。

平成十四年度からお使いいただいている教科書では、「読むこと」の教材ではなく、「書くこと」の教材と言葉について学習する教材で文字を書く指導ができるようにしました。それぞれの活動の中で、子どもたち一人ひとりにとって必然性をもって書いたものが読んでもらえる、覚えた文字で書いた内容が相手に伝わる、その喜びが、子どもたちに文字を覚える意欲をわかせるのではないかと考えました。

そこで、文字を書くことのスタートは「名刺作り」です。一人ひとり違うけれどいちばん身近な名前の文字と、みんなに共通の文字「い・ち・ね・ん・く・み」を学習します。すでに名前が書ける子は自分で書くし、先生に教えてもらって書く子がいてもよいでしょう。ここで書いた名刺は、自己紹介やこの後の学習に役立ちます。

これ以降の、学校探検報告など、いずれも書くことの必然性がある教材で、共通に学習する文字を押さえていけばひととおり書けるように配列しています。

付表の絵入りの平仮名一覧表も随所で活用してください。書くことがうれしいという子どもの気持ちを最大限大事にしたいと考えています。

「教科書ここが知りたい」は、国語編集部によく寄せられる疑問・質問にお答えするコーナーです。「こんなことを取り上げてほしい。」などのご意見を広報課までお寄せください。　FAX03-3493-5483
なお、光村ホームページも合わせてご覧ください。

http://www.mitsumura-tosho.co.jp
E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp